



ボリュームを管理する ONTAP 9

NetApp
February 12, 2026

目次

ボリュームを管理する	1
System ManagerでONTAPボリュームを管理する	1
ボリュームの追加	2
ボリュームへのタグの割り当て	5
削除したボリュームのリカバリ	6
削除したボリュームの選択	6
ボリューム構成の再設定	7

ボリュームを管理する

System ManagerでONTAPボリュームを管理する

System Managerでボリュームのリストを表示し、さまざまな操作を実行してボリュームを管理できます。

次のボリュームなど、一部のボリュームタイプはSystem Managerでは使用できません：

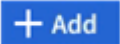

- Vol0
- DELおよびTMPタイプのボリューム
- FlexGroupコンスティチュエント
- MetroCluster構成内の複製ボリューム



手順

1. System Managerで、*Storage > Volumes*をクリックします。

ボリュームのリストが表示されます。

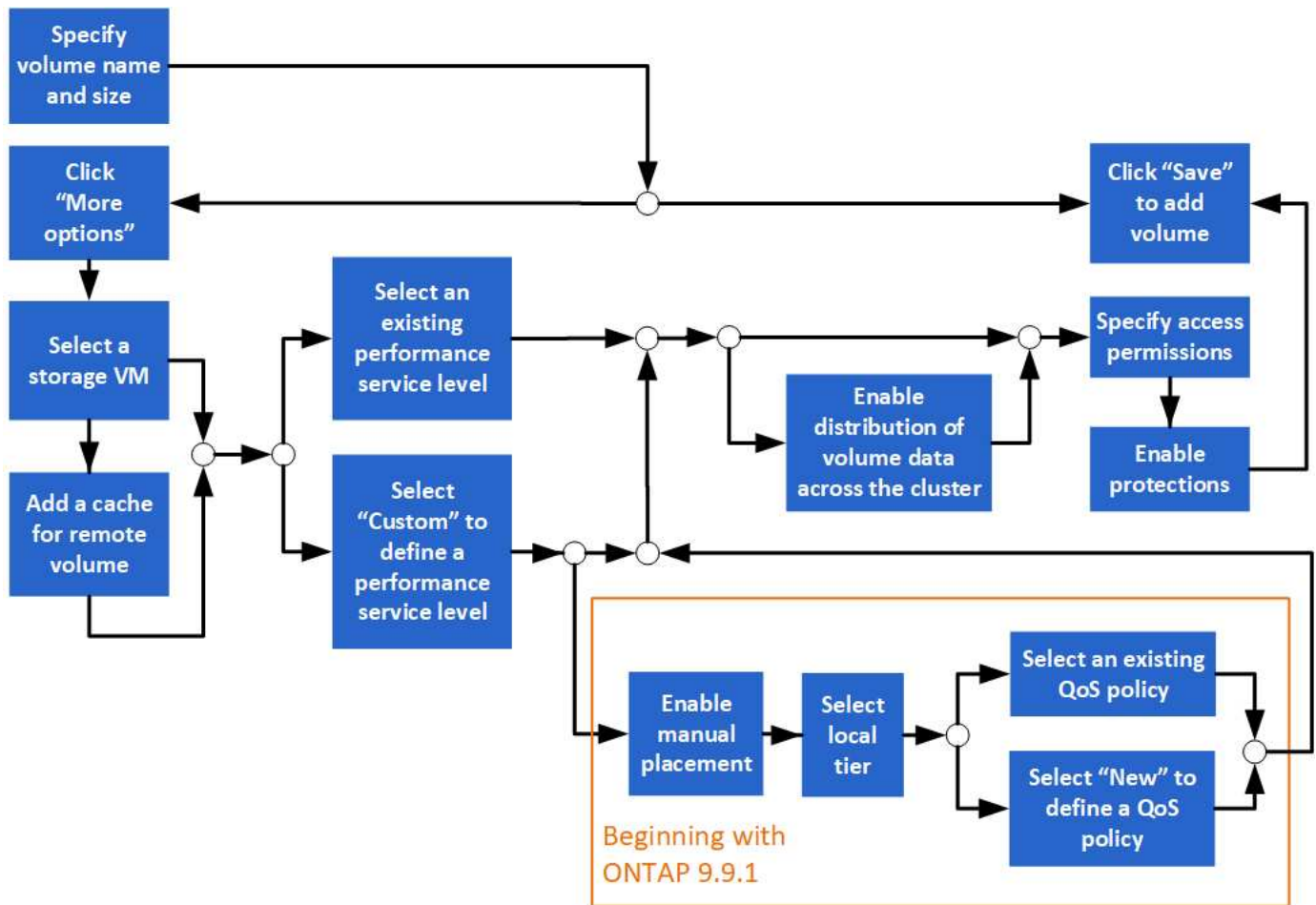
2. 次の操作を実行できます。

このタスクを実行するには...	次のアクションを実行してください
ボリュームの追加	 Add をクリックします。 "ボリュームの追加" を参照してください。
複数のボリュームを管理する	<p>ボリュームの横にあるボックスにチェックを入れます。</p> <ul style="list-style-type: none">•  Delete をクリックして、選択したボリュームを削除します。•  Protect をクリックして、選択したボリュームに保護ポリシーを割り当てます。•  More をクリックして、選択したすべてのボリュームに対して実行する以下のアクションのいずれかを選択します：<ul style="list-style-type: none">◦ クォータを有効にする◦ Take offline◦ Move◦ Show Deleted Volumes

<p>単一のボリュームを管理する</p>	<p>ボリュームの横にある  をクリックし、実行する次のいずれかのアクションを選択します：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 編集 • Resize（ONTAP 9.10.1以降、オンライン ボリュームとDP FlexVolのみ） • 削除 • クローン • Take Offline / Bring Online • Enable Quota / Disable Quota • Edit Export Policy • Edit Mount Path • Move • Edit Cloud Tier Settings • Protect
<p>ボリュームの名前を変更する</p>	<p>概要ページからボリュームの名前を変更できます。</p> <p>ボリューム名の横にある  をクリックし、ボリュームの名前を変更します。</p>

ボリュームの追加

ボリュームを作成し、NFSサービスまたはSMBサービス用に設定された既存のStorage VMに追加できます。



開始する前に

- クラスタ内にNFSサービスまたはSMBサービス用に設定された既存のStorage VMが必要です。
- ONTAP 9.13.1以降では、新規ボリュームで容量分析とアクティビティトラッキングをデフォルトで有効にできます。System Managerでは、クラスタレベルまたはストレージVMレベルでデフォルト設定を管理できます。詳細については、"[ファイルシステム分析の有効化](#)"をご覧ください。

手順

1. **Storage > Volumes** に移動します。
2. **+ Add** を選択します。
3. ボリュームの名前とサイズを指定します。
4. 次のいずれかの手順を実行します。

このボタンを選択...	このアクションを実行するには...
保存	ボリュームがシステムのデフォルトの設定で作成され、追加されます。追加の手順は必要ありません。
その他のオプション	ステップ5 に進んで、ボリュームの仕様を定義します。

5. ボリューム名とサイズを事前に指定している場合は、それらが表示されます。そうでない場合は、名前とサイズを入力してください。
6. プルダウン リストからStorage VMを選択します。

NFSプロトコルで構成されたストレージVMのみがリストに表示されます。NFSプロトコルで構成されたストレージVMが1つしか存在しない場合、「ストレージVM」フィールドは表示されません。

7. リモート ボリュームのキャッシュを追加するには、*Add a cache for remote volume*を選択し、次の値を指定します：

- クラスタを選択します。
- Storage VMを選択します。
- キャッシュ ボリュームにするボリュームを選択します。

8. *ストレージと最適化*セクションで、次の値を指定します：

- a. ボリュームの容量はすでに表示されていますが、必要に応じて変更できます。
- b. パフォーマンス サービス レベル フィールドで、サービス レベルを選択します：

選択するサービス レベル	これが起こると...
「Extreme」、「Performance」、「Value」などの既存のサービス レベル。 システムのプラットフォーム（AFFやFASなど）に有効なサービス レベルのみが表示されます。	ローカル ティアが自動的に選択されます。 ステップ 9 に進みます。
カスタム	[step8c] に進んで新しいサービス レベルを定義します。

- c. [\[\[step8c、ステップ 8c\]\]](#) ONTAP 9.9.1 以降では、System Manager を使用して、作成するボリュームを配置するローカル階層を手動で選択できます（「カスタム」サービス レベルを選択した場合）。



このオプションは、*リモート ボリュームのキャッシュとして追加*または*ボリューム データをクラスタ全体に分散*を選択した場合は使用できません（以下を参照）。

選択する項目	次の手順を実行します...
手動配置	手動配置が有効になっています。*ボリューム データをクラスタ全体に分散する*の選択は無効になっています（下記参照）。 Step 8d に進んでプロセスを完了してください。
選択なし	手動配置は無効になっていません。ローカル層が自動的に選択されます。 ステップ 9 に進みます。

- a. プルダウン メニューからローカル ティアを選択します。
- b. QoSポリシーを選択します。

[Existing]を選択してリストから既存のポリシーを選択するか、[New]を選択して新しいポリシーの仕様を入力します。

9. *最適化オプション*セクションで、ボリューム データをクラスタ全体に分散するかどうかを決定します：

選択する項目	これが起こると...
ボリューム データをクラスタ全体に分散	追加するボリュームはFlexGroupボリュームになります。以前に*手動配置*を選択した場合、このオプションは使用できません。
選択なし	追加するボリュームはFlexVolになります（デフォルト）。

10. *アクセス許可*セクションで、ボリュームが設定されているプロトコルのアクセス許可を指定します。

ONTAP 9.11.1以降、新しいボリュームはデフォルトでは共有できません。デフォルトのアクセス権限を指定するには、次のチェック ボックスをオンにします。

- **NGS** 経由のエクスポート：`default`ユーザーにデータへのフルアクセスを許可するエクスポート ポリシーを使用してボリュームを作成します。
- **SMB/CIFS**共有：自動生成された名前で共有を作成します。名前は編集可能です。アクセス権限は`Everyone`に付与されます。また、権限レベルを指定することもできます。

11. *保護*セクションで、ボリュームの保護を指定します。

- ONTAP 9.12.1以降では、デフォルトを使用するのではなく、* Snapshotを有効にする（ローカル）*を選択してSnapshotポリシーを選択できます。
- *Enable SnapMirror（ローカルまたはリモート）*を選択した場合は、プルダウン リストからデスティネーション クラスタの保護ポリシーと設定を指定します。

12. *保存*を選択します。

ボリュームが作成され、クラスタおよびStorage VMに追加されます。



このボリュームの仕様をAnsible Playbookに保存することもできます。詳細については、["Ansible Playbookを使用したボリュームやLUNの追加 / 編集"](#)をご覧ください。

ボリュームへのタグの割り当て

ONTAP 9.14.1以降では、System Managerを使用してボリュームにタグを割り当てて、プロジェクトやコスト センターなどのカテゴリに属するオブジェクトを識別できます。

タスク概要

ボリュームにタグを割り当てられます。まず、タグを定義して追加する必要があります。その後は、タグを編集したり、削除したりすることもできます。

タグは、ボリュームの作成時に追加することも、あとから追加することもできます。

タグを定義するには、キーを指定し、`key:value`という形式で値を関連付けます。例：`dept:engineering`または`location:san-jose`。

タグを作成するときは、次の点を考慮する必要があります。

- キーは1文字以上の長さが必要で、nullにすることはできない。値はnullにしてもよい。
- キーは、値をコンマで区切ることで複数の値とペアにすることができます。例：`location:san-jose,toronto`

- タグは複数のリソースに使用できる。
- キーの先頭は小文字にする。
- ボリュームに割り当てたタグは、ボリュームを削除すると削除されます。
- ボリュームがリカバリ キューからリカバリされた場合、タグはリカバリされません。
- タグは、ボリュームを移動またはクローニングしても保持されます。
- ディザスタ リカバリ関係にあるStorage VMに割り当てられたタグは、パートナー サイトのボリュームに複製されます。

手順

タグを管理するには、次の手順を実行します。

1. System Managerで、*Volumes*をクリックし、タグを追加するボリュームを選択します。

タグは*Tags*セクションに一覧表示されます。

2. 既存のタグを変更したり、新しいタグを追加するには、**Manage Tags** をクリックします。

タグは追加、編集、または削除できます。

このアクションを実行するには...	次の手順を実行します。
タグを追加	<ol style="list-style-type: none"> a. *Add Tag*をクリックします。 b. キーとその値を指定します（複数の値はカンマで区切ります）。 c. *保存*をクリックします。
タグを編集する	<ol style="list-style-type: none"> a. *Key*および*Values (optional)*フィールドの内容を変更します。 b. *保存*をクリックします。
タグの削除	<ol style="list-style-type: none"> a. 削除したいタグの横にある  をクリックします。

削除したボリュームのリカバリ

誤って削除したFlexVolは、System Managerを使用してリカバリできます。ONTAP 9.8以降では、System Managerを使用してFlexGroupボリュームをリカバリすることもできます。ボリュームをパージして完全に削除することもできます。

ボリュームの保持期間はStorage VMレベルで設定できます。デフォルトでは、ボリュームの保持期間は12時間に設定されます。

削除したボリュームの選択

手順

1. *[ストレージ] > [ボリューム]*をクリックします。

2. *[詳細] > [削除されたボリュームを表示]*をクリックします。
3. ボリュームを選択し、目的の操作（ボリュームをリカバリするか完全に削除するか）を選択します。

ボリューム構成の再設定

ボリュームを削除すると、ボリュームの関連する構成が削除されます。ボリュームをリカバリしても、すべての構成が再設定されるわけではありません。ボリュームのリカバリ後に元の状態に戻すには、次のタスクを手動で実行します。

手順

1. ボリュームの名前を変更します。
2. ジャンクション パスを設定します（NAS）。
3. ボリュームのLUNのマッピングを作成します（SAN）。
4. スナップショットポリシーとエクスポートポリシーをボリュームに関連付けます。
5. ボリュームの新しいクォータ ポリシー ルールを追加します。
6. ボリュームのQoSポリシーを追加します。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。